

タイトル「**2021年度危機管理学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4611		
科目名	危機管理特殊研究 1		
担当教員	吉富 望		
対象学年	3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	金 2		
講義室	2304	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1－E [学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 D P 3－H [論理的思考力・批判的思考力] 理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 D P 4－F [探求力・問題解決力] 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 D P 6－K [表現力・対話力] 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 D P 7－L [協働力・牽引力] 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連携を強めることができる。 D P 8－M [省察力] 知識と経験とを関連づけ、学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E 1 学識と専門知識（25%） H 1 論理的思考（20%） F 1 探求と論拠（20%） F 2 課題解決（10%） K 1 ライティング・コミュニケーション（10%） L 1 チームワーク（5%） M 1 総合的・応用的学修（10%）		
教員の実務経験	■ 経験した実務の内容 陸上自衛隊に32年間勤務し、この間、第一線部隊において部隊運用に関わる実務に約11年間従事しました。また、内閣官房内閣情報調査室、防衛省防衛局、防衛省情報本部、陸上幕僚監部といった中央機関で防衛力整備、部隊運用、戦略情報に関わる実務に約11年間従事しました。加えて、防衛大学校、陸上自衛隊研究本部、陸上自衛隊小平学校などで教育及び研究開発の実務に約10年間従事しました。 ■ 実務経験をどのように活かした授業にするか 本演習では、基本的に教科書を用いて第二次世界大戦後の日本の防衛の変遷に関する学識・専門技能の習得を図りますが、教科書に書かれていない防衛の現場における約30年間の変遷について実務経験に基づいて教育します。このことで、生きた学識・専門技能を習得するとともに、日本の置かれた安全保障・防衛上の状況の変遷を正確に把握し、氾濫する安全保障・防衛関連の情報を適切に理解する力を高めます。【第2～15回】		

成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期
科目概要・キーワード	危機管理に関する専門的な問題解決のために必要な知識やスキルを身に付けるための指導を行います。学生個人のキャリア形成につながるよう、学生自身が危機管理に関する具体的な業務、資格などに関する専門的な研究を行い、実務教員が中心となり実践的な指導を行います。担当する実務教員が、自らの実務経験に基づいたテーマの科目を設定し、学生が自らのキャリア形成に役立つ科目を選択します。危機管理に関する知識や教養を養うだけでなく、危機管理において必須となるコーディネート、マネジメントに必要な調整能力を身に付けることを目標とします。ここでは、危機管理に関する実務についての知識を修得するための基礎的な指導を行います。授業形態は演習により行います。なお、授業の一部を補完するため、あるいは代替するためにオンライン授業（ライブ型）を取り入れる場合があります。 ■キーワード 安全保障、防衛、自衛隊
授業の趣旨	■副題 第二次世界大戦後における日本の安全保障・防衛の変遷を学び、日本の危機管理の基盤である安全保障・防衛に関する高度の理解を持つ危機管理パーソンになりましょう。 ■授業の目的 安全保障・防衛は国の危機管理の基盤ですが、日本社会では安全保障・防衛に関する偏見や誤った認識も多く、安全保障・防衛に関する現実的な議論が行われにくい環境にあります。本演習では第二次世界大戦後の日本の安全保障・防衛の変遷を丁寧に学び、事実に基づいた現実的な議論ができる素地を養います。 ■授業のポイント 安全保障・防衛によって日本の平和と独立を守ることは、日本におけるあらゆる危機管理の基盤です。しかし、第二次世界大戦後の日本の長い平和によって、多くの国民は安全保障・防衛の重要性を忘れ、安全保障・防衛に対する無関心や偏見が蔓延するに至っています。日本を取り巻く戦略環境は、世界的な冷戦終結後にも緊張状態を維持しており、核・ミサイル戦力やサイバー戦力を含む強大かつ先進的な軍事力が対峙する世界でも類を見ない危険性を孕んだまま推移しています。 そうした戦略環境の中、日本の安全保障・防衛は自衛隊と米軍によって担保されてきましたが、日本周辺の戦略環境が緊張度を増し、安全保障・防衛の重要度が高まっているにもかかわらず、日本社会では依然として安全保障・防衛に関する観念論、偏見、無関心などが的を得た議論を阻害し、適切な防衛力整備を難しくしています。このことは、日本の危機管理にとって由々しき事態と認識する必要があります。日本では、高校までの学校教育で安全保障・防衛に関する教育は皆無に等しいため、本演習では第二次世界大戦後の日本の安全保障・防衛の変遷を学んで、観念論や偏見を排した考察を行う素地を養います。その素地を基礎にして危機管理特殊研究2～4へと進みます。
総合到達目標	■一般総合目標（GIO） 日本の安全保障・防衛に関する学識・専門技能を身につけるために、太平洋戦争終結以降の変遷を理解する。また、論理的思考力を高めるために、日本の安全保障・防衛に関する多様な見方を養う。 ■個別行動目標（SBOs） SBO1 日本の安全保障・防衛について第二次世界大戦後から現在に至る間の経緯を説明できる。（第2～12回） SBO2 今後の日本の安全保障・防衛のあり方について意見を述べることができる。（第13～15回） SBO3 日本の安全保障・防衛に関係する国内外の情勢について説明できる。（第2～15回）
成績評価方法	■情勢レポート15回（30%）：適用ルーブリック E1・F1 （評価の観点）日本の安全保障・防衛にとって重要な新聞記事を発見し、その重要性を説明でき、今後の推移について適切に考察しているかを問います。 （フィードバックの方法）その場で教員がコメントします。 ■教科書レポート15回（50%）：適用ルーブリック E1・H1・F1・F2・K1 （評価の観点）教科書の該当する章の内容全般を正しく把握し、その中で特に重要な部分を指摘できるとともに、教科書の内容で疑問のある部分を見出せるかを問います。 （フィードバックの方法）その場で教員がコメントします。 ■授業参加度（発言等）15回（20%）適用ルーブリック F1・F2・L1・M1 【ディスタンスラーニングの場合は授業参加度の評価は無くなり、教科書レポートの評価割合が70%になります。】 （評価の観点）質問やコメントを積極的に発しているかを問います。 （フィードバックの方法）その場で教員がコメントします。
履修条件	■日本の安全保障・防衛について現場の状況を含めて深く学ぶと同時に、理解力、分析力、表現力などを伸ばしたい学生は履修してください。 ■「防衛政策RMGT3557」（3年次前期）の履修が望ましい。

履修上の注意点	危機管理パーソンとして自国の防衛について適切に説明できる見識を持っていることは不可欠です。日本では学ぶ機会の少ない安全保障・防衛を基礎から学んで、真の危機管理パーソンを目指しましょう。	
授業内容	回	内容
	1	① 授業テーマ：占領期の国際政治と日本 ② 授業概要 (1) 情勢レポート（日本の安全保障・防衛に関する現況報告） - 過去1週間の新聞記事から重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。(E1,F1) - 学生間の質疑応答 - 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 教科書レポート - 教科書第1章1「占領期の国際政治と日本」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を発表。この際のポイントは、占領期という特殊な環境での日本の安全保障について確認すること。(E1,H1,F1,F2,K1) - 学生間の質疑応答 - 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習（200分） - 序章を読む。 - 教科書第1章1を読んでレポートを作成（A41枚） ④ 復習（40分） 授業の内容を再確認
	2	① 授業テーマ：高度経済成長期の安全保障 ② 授業概要 (1) 情勢レポート（日本の安全保障・防衛に関する現況報告） - 過去1週間の新聞記事から重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。(E1,F1) - 学生間の質疑応答 - 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 教科書レポート - 教科書第1章2「高度経済成長期の安全保障」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を発表。この際のポイントは、独立して経済力が高まる中で、国の安全保障を如何に捉えていたかを確認すること。(E1,H1,F1,F2,K1) - 学生間の質疑応答 - 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習（200分） 教科書第1章2を読んでレポートを作成（A41枚） ④ 復習（40分） 授業の内容を再確認
	3	① 授業テーマ：デタントから冷戦の終焉へ ② 授業概要 (1) 情勢レポート（日本の安全保障・防衛に関する現況報告） - 過去1週間の新聞記事から重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。(E1,F1) - 学生間の質疑応答 - 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 教科書レポート - 教科書第1章3「デタントから冷戦の終焉へ」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を発表。この際のポイントは、冷戦という特異な環境の中での日本の役割について確認すること。(E1,H1,F1,F2,K1) - 学生間の質疑応答 - 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習（200分） 教科書第1章3を読んでレポートを作成（A41枚） ④ 復習（40分） 授業の内容を再確認
	4	① 授業テーマ：「湾岸ショック」からカンボジアへ ② 授業概要 (1) 情勢レポート（日本の安全保障・防衛に関する現況報告）

	・ 過去 1 週間の新聞記事から重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。(E1,F1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 教科書レポート ・ 教科書第 2 章 1 「湾岸ショック」からカンボジアへについて、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を発表。この際のポイントは、冷戦終結という大きな環境の変化に如何に対応したかを確認すること。(E1,H1,F1,F2,K1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習 (200分) 教科書第 2 章 1 を読んでレポートを作成 (A41枚) ④ 復習 (40分) 授業の内容を再確認
5	① 授業テーマ：「普通の国」論と改憲論議の変質 ② 授業概要 (1) 情勢レポート (日本の安全保障・防衛に関する現況報告) ・ 過去 1 週間の新聞記事から重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。(E1,F1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 教科書レポート ・ 教科書第 2 章 2 「普通の国」論と改憲論議の変質について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を発表。この際のポイントは、安全保障に向き合う姿勢の高まりの背景を確認すること。(E1,H1,F1,F2,K1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習 (200分) 教科書第 2 章 2 を読んでレポートを作成 (A41枚) ④ 復習 (40分) 授業の内容を再確認
6	① 授業テーマ：動いたアジア外交 ② 授業概要 (1) 情勢レポート (日本の安全保障・防衛に関する現況報告) ・ 過去 1 週間の新聞記事から重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。(E1,F1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 教科書レポート ・ 教科書第 2 章 3 「動いたアジア外交」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を発表。この際のポイントは、アジアの中で日本の果たすべき役割を模索する姿勢を確認すること。(E1,H1,F1,F2,K1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習 (200分) 教科書第 2 章 3 を読んでレポートを作成 (A41枚) ④ 復習 (40分) 授業の内容を再確認
7	① 授業テーマ：日米同盟はいかに「再確認」されたか ② 授業概要 (1) 情勢レポート (日本の安全保障・防衛に関する現況報告) ・ 過去 1 週間の新聞記事から重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。(E1,F1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 教科書レポート発表 ・ 教科書第 3 章 1 「日米同盟はいかに「再確認」されたか」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を発表。この際のポイントは、冷戦終結後の日米同盟の意義を如何に再定義したかを確認すること。(E1,H1,F1,F2,K1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック

	③ 予習 (200分) 教科書第3章1を読んでレポートを作成 (A41枚) ④ 復習 (40分) 授業の内容を再確認
8	① 授業テーマ：日米同盟に北朝鮮、中国はどうかかわったか ② 授業概要 (1) 情勢レポート (日本の安全保障・防衛に関する現況報告) - 過去1週間の新聞記事から重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。(E1,F1) - 学生間の質疑応答 - 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 教科書レポート - 教科書第3章2「日米同盟に北朝鮮、中国はどうかかわったか」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を発表。この際のポイントは、日本と米国が中国や北朝鮮の安全保障上の影響を如何に捉えていたかを確認すること (E1,H1,F1,F2,K1) - 学生間の質疑応答 - 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習 (200分) 教科書第3章2を読んでレポートを作成 (A41枚) ④ 復習 (40分) 授業の内容を再確認
9	① 授業テーマ：日米同盟における国際主義 ② 授業概要 (1) 情勢レポート (日本の安全保障・防衛に関する現況報告) - 過去1週間の新聞記事から重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。(E1,F1) - 学生間の質疑応答 - 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 教科書レポート - 教科書第3章3「日米同盟における国際主義」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を発表。この際のポイントは、日米同盟における二国間関係と多国間協力との相互補完について確認すること。(E1,H1,F1,F2,K1) - 学生間の質疑応答 - 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習 (200分) 教科書第3章3を読んでレポートを作成 (A41枚) ④ 復習 (40分) 授業の内容を再確認
10	① 授業テーマ：小泉外交の功罪 ② 授業概要 (1) 情勢レポート (日本の安全保障・防衛に関する現況報告) - 過去1週間の新聞記事から重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。(E1,F1) - 学生間の質疑応答 - 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 教科書レポート - 教科書第4章1「小泉外交の功罪」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を発表。この際、9.11テロへの対応を中心に小泉政権の安全保障政策が及ぼした影響を確認すること。(E1,H1,F1,F2,K1) - 学生間の質疑応答 - 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習 (200分) 教科書第4章1を読んでレポートを作成 (A41枚) ④ 復習 (40分) 授業の内容を再確認
11	① 授業テーマ：第1次安倍政権から民主党政権へ ② 授業概要 (1) 情勢レポート (日本の安全保障・防衛に関する現況報告) - 過去1週間の新聞記事から重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。(E1,F1) - 学生間の質疑応答

	・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 教科書レポート ・ 教科書第4章2「第1次安倍政権から民主党政権へ」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を発表。この際のポイントは、民主党政権の安全保障政策について評価すること。(E1,H1,F1,F2,K1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習(200分) 教科書第4章2を読んでレポートを作成(A41枚) ④ 復習(40分) 授業の内容を再確認
12	① 授業テーマ：第2次安倍政権と平和安全法制 ② 授業概要 (1) 情勢レポート(日本の安全保障・防衛に関する現況報告) ・ 過去1週間の新聞記事から重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。(E1,F1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 教科書レポート ・ 教科書第4章3「第2次安倍政権と平和安全法制」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を発表。この際のポイントは、平和安全法制の概要を理解し、それが今後の日本の安全保障に与える影響について幅広く考察すること。(E1,H1,F1,F2,K1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習(200分) 教科書第4章3を読んでレポートを作成(A41枚) ④ 復習(40分) 授業の内容を再確認
13	① 授業テーマ：憲法と軍事力をどう考えるか ② 授業概要 (1) 情勢レポート(日本の安全保障・防衛に関する現況報告) ・ 過去1週間の新聞記事から重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。(E1,F1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 教科書レポート ・ 教科書第5章1「憲法と軍事力をどう考えるか」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を発表。この際のポイントは、憲法と軍事力との関係について偏見や先入観を持たずに幅広い視点で考察すること。(E1,H1,F1,F2,K1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習(200分) 教科書第5章1を読んでレポートを作成(A41枚) ④ 復習(40分) 授業の内容を再確認
14	① 授業テーマ：中国とどう向き合うか ② 授業概要 (1) 情勢レポート(日本の安全保障・防衛に関する現況報告) ・ 過去1週間の新聞記事から重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。(E1,F1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 教科書レポート ・ 教科書第5章2「中国とどう向き合うか」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を発表。この際のポイントは、安全保障上のみならず経済上も無視できない中国に対して如何に対応すべきかを幅広く考察すること。(E1,H1,F1,F2,K1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習(200分) 教科書第5章2を読んでレポートを作成(A41枚)

	④ 復習 (40分) 授業の内容を再確認
15	① 授業テーマ：米中の狭間をどう生きるか ② 授業概要 （１）情勢レポート（日本の安全保障・防衛に関する現況報告） ・ 過去 1 週間の新聞記事から重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。（E1,F1） ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック （２）教科書レポート ・ 教科書第 5 章 3 「米中の狭間をどう生きるか」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を発表。この際のポイントは、米中の狭間に位置する日本が如何なる安全保障政策をとるべきかを幅広く考察すること。（E1,H1,F1,F2,K1） ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習 (200分) 教科書第 5 章 3 を読んでレポートを作成（A41枚） ④ 復習 (40分) ・ 授業の内容を再確認する。 ・ 終章を読む。
関連科目	「危機管理特殊研究 2 RMGT4612」、「危機管理特殊研究 3 RMGT4513」、「危機管理特殊研究 4 RMGT4514」と密接に関係します。
教科書	下記の教科書を使用しますので、購入してください。 ■添谷芳秀『安全保障を問いなおす 「九条－安保体制」を超えて』NHK出版、2016年4月25日。
参考書・参考URL	■佐藤正久「高校生にも読んでほしい安全保障の授業」ワニブックス、2015年8月25日 ■細谷雄一「安保論争」ちくま新書、2016年7月10日 ■鈴木和之「日本の安全保障法制入門」内外出版、2015年12月23日 ■防衛省「令和 2 年版防衛白書」日経印刷株式会社、2020年8月31日
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 火曜日 3 限。それ以外の時間については研究室で対応します。なお、研究室に不在の場合もあるので、事前にメール等でアポイントメントを取ることをお勧めします。
研究比率	■危機管理領域との対応 パブリックセキュリティ5%：グローバルセキュリティ95% ■危機管理学と法学」とのバランス 危機管理学90%：法学10%

